

平成 22 年度

## 病虫害発生予察特殊報 第1号

平成 22 年 9 月 1 日  
茨城県病虫害防除所  
TEL : 029-227-2445

### ヒメボクトウの発生について

害虫名：ヒメボクトウ

学名：*Cossus insularis* (Staudinger)

発生作物：ナシ，リンゴ

#### 1. 発生経過及び他県での発生状況

- ① 平成 22 年 4 月，県西地域のナシ園で枝幹部にせん孔虫によるものと思われる被害が確認された。被害の状況からボクトウガ類による被害と推察されたため，被害枝幹部を網で覆い，7 月中旬に羽化成虫を捕獲した。また，ヒメボクトウの合成性フェロモンを用いたトラップにおいても，同時期に成虫の誘引を確認した。捕獲した成虫について農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ，ヒメボクトウと判明した。
- ② 同様の被害が県北地域のリンゴ園でも確認されたため，周辺部にフェロモントラップを設置したところ，7 月上旬に成虫の誘引を確認した。同所に同定を依頼したところ，ヒメボクトウと判明した。
- ③ 本虫によるナシやリンゴへの加害は，徳島県，秋田県，山形県，長野県，福島県，宮城県で確認されている。

#### 2. 形態

幼虫は芋虫状で，体長 10～40mm，赤紫色～赤褐色を呈している（写真 1）。成虫は開帳 40～60mm，全身が灰褐色で，鱗粉に覆われている（写真 2）。

#### 3. 生態

産卵は，樹皮の間隙や枝の裂傷部に卵塊で行われる。樹皮で孵化した幼虫は枝を食害し，枝内部に食入する。幼虫は集団（20～30 頭）で生息しており，羽化までに 1～2 年を要すると考えられている。樹幹内で蛹化し，羽化後の脱出孔には蛹殻が半身を乗り出した格好で残される（写真 3）。7～8 月に羽化し，年 1 回の発生である。

#### 4. 被害の特徴

幼虫が枝内部に食入し，空洞化させる。被害樹は樹勢が低下し，収量が減り，被害が激しい場合は枯死する。加害部位（写真 4）から糞や木屑が排出され，枝内部を食害するので樹液がしみ出し，独特の異臭がする。

## 5. 防除対策

- ① 被害のある枝はノコギリ等で切り取り，できるだけ粉砕するなど，適切に処分をする。
- ② 粗皮部は産卵場所となるため，休眠期に粗皮削りを行う。
- ③ 薬剤防除は，天敵線虫を用いた生物農薬であるバイオセーフ（表）を用いる。幼虫発生期に木屑排出孔を中心に，薬液が滴るまで散布するか注入し，枝内部の幼虫に到達するように行う。
- ④ 本虫の主な寄主植物であるヤナギやポプラが果樹園近くに植えられている場合は，成虫が飛来する恐れがあるので注意する。

表 ナシ及びリンゴのヒメボクトウに登録のある農薬（平成22年8月25日現在）

薬剤名	使用量/希釈液量	使用時期	有効成分
バイオセーフ	2500万頭（約10g） /25リットル	幼虫発生期	スタイナーネマ カーポカプサエ

※農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法，注意事項等を確認のうえ使用してください。



写真1 幼虫とナシ枝幹内の被害の様子



写真2 フェロモントラップに誘引された成虫



写真3 ナシ樹における羽化後の蛹殻

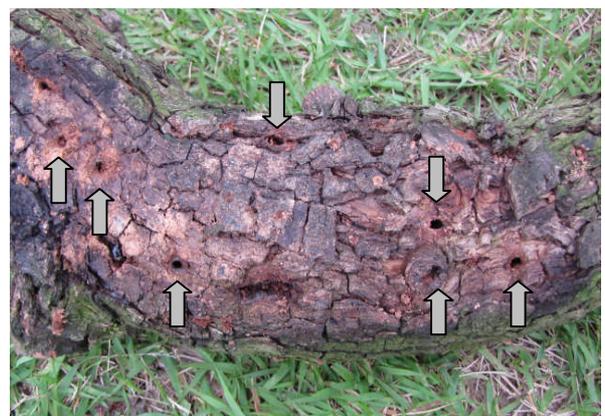


写真4 ナシ樹における幼虫の食害孔